



健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所: 一般社団法人日本フローリング工業会
編集責任者: 広報法務委員長 石本勝範

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F
TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <https://www.j-flooring.jp/>

中央省庁要請活動を実施

(一社)日本フローリング工業会は、毎年7月に、会長、副会長、専務理事(総勢7人)が、林野庁、国土交通省の関係幹部・部署を訪問し、木質フローリングの振興施策の強化に向けた要請活動を実施してきています。

今年は、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、会長、専務理事の2名に規模を縮小し、7月29日(水)に昨年同様の関係幹部・部署に要請活動を実施しました。

林野庁では、工業会の成り立ち以降、会員が国産材の活用に努めていることを説明し、木質フローリングの生産・施工を含めた木材産業振興のための施策拡充、公共建築物や民間非住宅建築物の木造化・木質化の施策拡充を求める要請書を手渡しました。

また、国土交通省では、営繕部建築技術調整室、住宅局木造住宅振興室を訪れ、工業会の意見を反映して改訂した公共建築工事標準仕様書の周知、木質フローリングの拡大につながる木造住宅施策の拡充を求める要請書を手渡しました。



本郷 林野庁長官



太田 林野庁次長(当時)

眞城 木材産業課長

長野 木材利用課長



12月理事会が書面で開催される

例年12月に開催している理事会については、未だコロナ禍が収まる様相にないことから、書面により開催され、次の議案が了承されました。

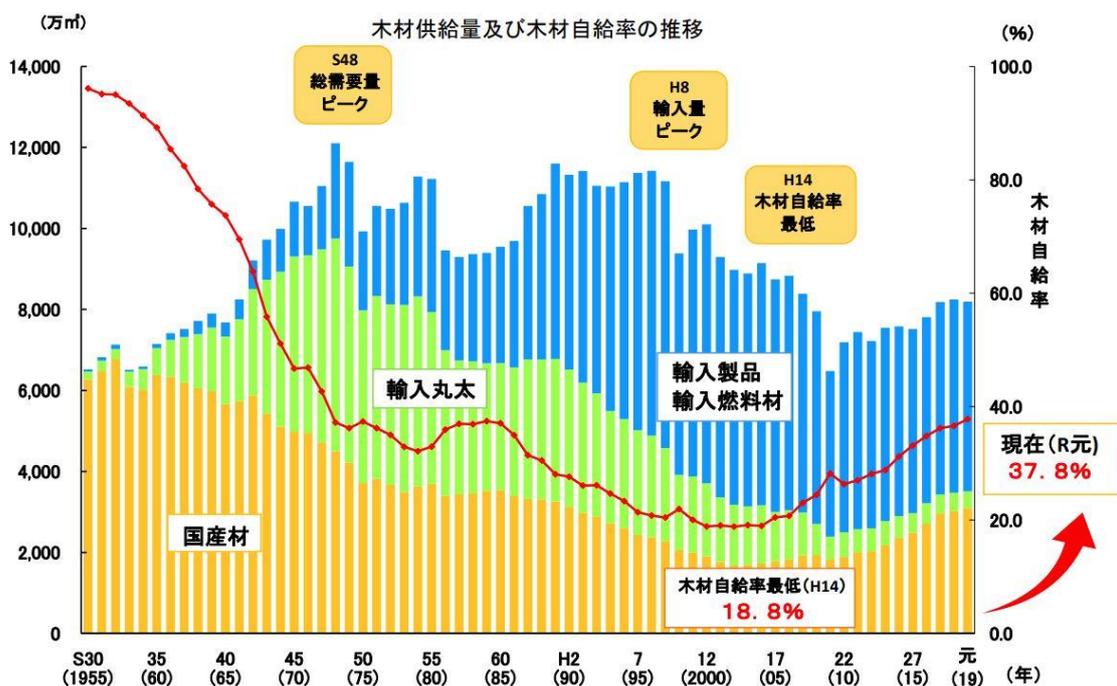
- 1 新規入会の申込み
- 2 令和2年度の見込み決算
- 3 令和3年度の予算案
- 4 令和3年度の総会開催案
- 5 新型コロナウイルス禍における工業会活動（報告事項）

※例年7月に開催している理事会については、コロナ禍により開催を見送りました。

林野庁が令和元年（2019年）木材需給表を公表

林野庁が9月に公表した木材需給表は、日本の木材の需要・供給量を丸太換算し、用材（製材品や合板、パルプ・チップ等に用いられる木材）、しいたけ原木及び燃料材に区分して取りまとめたものです。令和元年（2019年）の日本の木材需給等の概要は次のとおりです。

- 需要量 木材総需要量は、8,191万立方メートルとなり、前年比0.7%減少となりました。需要が減少したのは4年ぶりです。
- 供給量 木材の国内生産量は、3,099万立方メートルで前年比2.6%増加しました。国内生産量増加は10年連続です。
木材輸入量は、5,092万立方メートルで前年比2.6%減少しました。
- 木材自給率 令和元年（2019年）の木材自給率は37.8%となり前年比で1.2ポイント上昇しました。木材自給率は9年連続で上昇しています。



(林野庁 HP より)

新規入会会員の紹介

(令和2年12月の理事会承認)

ジィ・エイチ・エス沖縄株式会社が、令和2年12月理事会で正会員として入会が認められました。

ジィ・エイチ・エス沖縄株式会社

住 所 : 沖縄県宜野湾市嘉数2丁目14番10号

T E L : 098-868-0102

代 表 者 : 代表取締役 伊波 守

設 立 : 2010年4月

業 務 内 容 : 木質フローリング等の商品販売

所 属 部 会 : 施工流通部会

所 属 支 部 : 九州支部



一般流通木材を活用した木造7階建てビルが建設中



(林野庁 HP より)

現在、宮城県仙台市にて建設中の純木造7階建てビル「仙台駅東口プロジェクト」(高惣木工ビル)は、日本で初めて一般流通木材(無垢材)を活用した高層木造建築です(来年2月竣工予定)。(株)シェルター(山形県山形市)が、設計・施工をしており、同社が開発した木質耐火部材「クールウッド」を採用しています。クールウッドは、木製の荷重支持部材を石こうボードで覆い、さらに表面を木で覆った部材で、当ビルでは国産のスギとカラマツを独自の技術で束ねて使っているとのこと。同社によれば、集成材のように注文部材でなく、汎用性の高い一般流通木材を使用しているため、鉄筋コンクリート造と競争できる建築コストになるとのことです。

議員連盟が公共建築物等木材利用促進法の改正等を検討

都市の木造・木質化への実現に向けて昨年設立された「森林(もり)を活かす都市(まち)の木造化推進議員連盟」(自由民主党)は、創設から10年経過した「公共建築物等木材利用促進法」について、林業・木材業界からの要望も踏まえ、今年度、業界等からのヒアリングを3回実施し、国会議員の意見も踏まえ、公共建築物等木材利用促進法の対象を民間建築物にも広げることを盛り込んだ論点整理を10月にとりまとめました。

同議員連盟は、この論点整理を踏まえた法案を作成し、議員立法にて次期通常国会(例年1月開始)に提出するとしています。

中部支部だより

大場晃 中部支部（天龍プレパーク株式会社）

本年度は新型コロナウイルスの影響により工業会としての活動は殆ど無いまま終わろうとしています。未だに収束の兆しも見えぬまま、先々の不安を残しながらの年越しになるのでしょうか。経済活動にも大きな影響を与えた一年となりました。

さて、弊社がある静岡県内の産業の状況ですが、ご多聞に漏れず大方の企業は不調な上半期でした。建設業についての7～9月期は公共工事は受注物件在庫があり、前年並みで推移しております。反面、民間工事に関しては慎重気味で前年を下回りました。10～12月期見通しは公共工事に於いては前年同水準で推移されると思われるが、施工時期がはっきりしない難点が残っています。住宅関連は所得・雇用不安から購入意欲が冷え込んでおり、着工数は前年割れの状況です。展示場やモデルルームへの客足は戻りつつもあるが、需要の回復には至らない模様

です。貸家も投資家のマインドは上向かず、低調に推移する見通しになっております。

中部支部は感染防止対策（3密回避、非接触型体温計での検温等）に留意した上で本年度唯一の例会を、去る11月18日に開催しました。市況報告の中では中部地区公共工事は大型物件少なく、学校改修工事も夏休み短縮の影響もあり大幅に少なかったが、体育館の床メンテ工事については当会が進めている正しいメンテナンスの重要性・必要性のPRが認知されたのか活発な動きであるetc.の報告がありました。

逆境の中でもビジネスチャンスは必ず存在するので、軸をぶらさず進んで行くようにしたいと強く思う次第です。

ひとこと

大場 晃 中部支部（天龍プレパーク株式会社）

ひたひたと冬の足音が聞こえ始めてきた季節になりました。空気の乾燥にはくれぐれもお気を付けください。コロナ対策に於いても換気と共にある程度の湿度が重要で、家電メーカーによれば加湿器の売り上げが前年比大幅アップとの事。これもニューノーマルの一つでしょう。いずれにしても新型コロナウイルスの影響により生活が大きく変化した一年でした。（まだ振り返るには早すぎるかもしれませんが・・・）

今年の初めにこの状況を推測した人はいないと思いますが、まさか収束を見ないまま越年する事になるうとは。かのビル・ゲイツ氏はこれからの人類の大きな恐怖は「戦争による核爆弾」ではなく「空気感染するウィルス」であると2015年に言っており、その画像も今朝見たテレビでは流れていました。彼はその準備としてビル・ゲイツ財団の豊富な資金を利用してワクチン開発に取り組んでいる・・・ノストラダムスのような人物なのですね。

現下の状況で我が業界への影響といえば他の業種と比べて遅くなります。建築業全体には来年以降にボディブローが効いてくるのではないのでしょうか。実際、住宅着工数は激減とは言えない数字で推移しています。以前リーマンショックで世界経済が大打撃を受け、日本国内でも且つてない程のダメージを負った経験がありましたが、住宅着工自体はさほど落ちませんでした。それよりも現実問題として少子高齢化がスピードを上げて進んでいる現状、将来を見れば戸建て、学校など減少傾向は認識せざるを得ないでしょう。その中で我々はどの方法で業績を上げるのか・・・様々な考えをもって来年を迎える事となりました。

やや早いご挨拶になりますが、来年もよろしく申し上げます。

●広報法務委員

- 委員長 石本 勝範
- 委員 佐藤 仁明 委員 矢野 伸和
- 委員 清見 謙造 委員 當舎 弘造

●会員動向 令和2年12月25日時点

正会員	52社
賛助会員	18社
合計	70社

●告知板

3月3日(水) ...令和3年度通常総会(東京)

編集後記

今年の工業会活動は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で各種会合が開催できず、会員の皆様には大変なご不便をおかけしました。活動の停滞した1年でしたが、効果あるウィルスワクチンの開発や延期されたオリンピックが開催に向けて動き出すニュースなどで、「来年は！」と、叫びたくなるこの頃です。

